

# 「輝く よっかいちの子ども」の育成をめざして

## ○「生きる力」「共に生きる力」を備えた「輝く よっかいちの子ども」の育成

四日市市では、学校教育の基盤となる「第2次四日市市学校教育ビジョン」を策定しました。ここでは、「生きる力」「共に生きる力」を備えた「輝く よっかいちの子ども」の育成に向けて、3つの視点の取組姿勢のもと、8つの重点目標を設け、27の取組、100の施策を示しました。

平成23年度から始まる本市の新たな総合計画に合わせた本ビジョンの取組・施策を推進し、「教育のまち よっかいち」の実現を図ります。

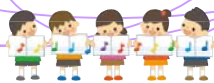


これらの重点目標の達成には、適正な規模の学校（学級）での教育が必要です。仲間と共に生きるための社会性を身につけるには、ある程度の規模の集団において、多くの他者とかかわりながら成長することが大切です。

子どもの発達とともに、身につけるべき力は変化していきます。四日市市教育委員会は、子どもたちの「生きる力」「共に生きる力」をはぐくむため、よりよい教育環境の実現をめざします。



# 四日市市学校適正規模等に関する基本的な考え方



平成19年6月 四日市市教育委員会

平成19年6月、四日市市教育委員会は、学校における学習環境をふまえた適正な学校規模や学校配置のあり方についての基本的な考え方をまとめました。

四日市市学校教育ビジョンでは「生きる力」「共に生きる力」をはぐくむことを基本理念としています。この「共に生きる力」である「コミュニケーション力」や「互いに向上する人間関係」を実現するための大切な条件は、「共に」**学ぶなかまの存在**であり、しかも**ある程度の大きさの学習・生活集団が形成されていること**です。子ども達が将来、社会に出て行くことを考えると、子ども時代に一定数の友達や先生と触れ合い、切磋琢磨できる環境は、子ども達の**社会性**や**協調性**を育てる場として大変重要です。

## 最適な学級数なら



- クラス替えにより、人のつながりや友人関係が広げられる
- 習熟度別指導など**多様な学習や生活の指導**が適切に行える
- 必要な教員の数が確保され、音楽や図工など専門教員の学習指導を受けられるなど、**児童に対する指導や教科学習の充実**が図られる
- 児童が**多くの教員と触れ合う**ことができる
- 授業や運動会など学校行事を通じて、**集団間の交流や向上心**が育成できる

## 最適な学級の人数なら



- 学習における**班活動**や**話し合い活動**が充実できる
- **体育科のゲーム**や**球技**、**音楽科の合唱**や**合奏**の学習を円滑に行い、その**教育効果**が期待できる
- 集団の中での役割分担や子ども同士のかかわりを通して、**社会性**や**協調性**を身に付けることができる



■ 最適な学級の人数 **21~35人**

上記人数が最適だと思うと回答した教職員の割合 94.1%

\*市内教職員約1500人に対するアンケート(H18)より